

教宣 せぶん

確かな一歩

どぶいたニュース 172号に先日行われた「契約係嘱託社員制度」の団交内容が掲載されました。交渉内容をみると、私たちも、会社も、お互いに「今回の措置は暫定的なもの」というスタンスに立っています。もちろん、そこには本体である社員制度がどう決着するかという問題が絡んでいることは言うまでもありませんが、私たちからしてみれば、このスタンスに会社を立たせたことじたいに大きな成果があると言えます。

この問題で会社は「提案」というスタイルはとったものの、そのすすめ方はまさに「通知」そのものでした。私たちがこの提案に一切合意していないにもかかわらず、管下組合員に対し、次年度の雇用延長をしない旨の念書に強引に判を押させ、団交での私たちの要求や声にも一切耳を傾けませんでした。東海日勤労組が嘱託制度廃止を認めたなか、会社は一方的に制度廃止を強行してきました。どぶいたニュースにも書かれていますが、こうした状況のなか、契約係社員としての業務を行ないながら60歳以降の雇用延長を保証させたことはまさに私たちのたたかいが大きく実を結んでいることの証左です。今回の交渉で会社は「あくまでシニア社員制度の枠組みのなかでの雇用延長」ということを強調していますが、そこには地裁で敗れ、世論の声を無視できなくなった、押されざるを得ない会社の姿が浮かび上がってきます。この「事実」や「成果」を共有し、私たちはさらに果敢にこのたたかいをすすめていきます。

「俺はもう失うものはないから後輩たちのためにも徹底的にたたかう」「社員制度廃止を強行する会社のやり方に納得できない」など、当初原告として立ち上がった方のなかには嘱託社員の先輩たちも含まれていました。嘱託制度廃止を一方的にすすめる会社の前にやむなく原告を下りられたわけですが、先輩たちはいまでも私たちのたたかいを温かく支援してくれています。今回の60歳以降の雇用延長を勝ち取ったことは、こうした先輩方の「志」にもこたえるものだと確信します。

私たちのたたかいの成果は目に見えるかたちであられるようになってきました。しかし、決して手を緩められるような状況にはありません。果敢に、ぬかりなくこのたたかいをすすめ、本体の社員制度廃止を撤回させた後に、あらためて「契約係嘱託社員制度」交渉のテーブルに着きます。

さあ、本体の社員制度の勝利、解決にむけて、さらに手綱を引き締め、全員でたたかい切りましょう。